

生田地区に社会教育施設を 5万人の町にふさわしい学びの場を

12月市議会で、井口市議質問

あかるい生田

社会教育施設とは

一生学び、生きる力をつける場所

十二月十六日、川崎市議会十二月議会の一般質問で、日本共産党の井口まみ市議は、「生田地区に社会教育施設の建設を」と求めました。これは単なる貸し館をつくるのではなく、文化の薫り高い生田地区の学びの場を作ることだということ、明らかにしました。

まず井口市議は多摩市民館における、市民館主催や、市民と職員が協働して開催している講座の数などを質問。昨年1年間で26講座、延べ六千人が参加していることがわかりました。市の職員は、社会教育主事の資格を取ることに励み、研修も積んで、市民が意欲を持って、自分たちの要求に基づきながら学び、活動できるように援助していることも答弁でわかりました。

井口市議は「とても活発だと言えるが、多摩区では登戸に來なければという講座に参加できない」として、社会教育施設である公民館の活動が盛んな岡山市に視察に行つて学んだ事例を紹介しました。岡山市には中学校区ごとに公民館があ



12月議会の一般質問をおこなう井口まみ市議

2011年1月
市議会報告
日本共産党
市会議員
井口まみ
(発行)
日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話 200-3360
FAX 245-4140
<http://www.iguchi-mami.jp>



り、いつでもだれでもそこに行けば関心のある講座に参加できます。しかしちよつと離れていて高齢化がすすんでいる地域には、職員がはかかっていって、出前講座をやっています。「中学校区でも参加できない人がいたら、出かけていって参加の機会を保障する。それが教育の機会均等を体現している姿だ。生田は五万人も住んでいる。まず学ぶ場があつて当然。施設を作るべき」とただしました。

「学校の施設開放の利用を」
…社会教育のあり方が問われる
それに対し金井教育長は「学校施設の

開放を中心に、子どもたちの教育活動に支障のないようにしながら、地域の方々の生涯学習や市民活動の環境整備に努める」とこたえました。

これは、なにか集まりたい人は夜か土日に学校に行くって下さい、ということ、社会教育の推進に責任を負う教育委員会のあるあたりではありません。井口市議は「そこに行けば生きる意欲がわき、学び続けることで成長できるという実感を持つことができる機会を保障することが社会教育の任務ではないか。単なる貸し館をやつていけばいいということになつていないか、根本的な検討が必要」と厳しく指摘し、重ねて生田地区の施設建設

小田急線(遊園-新百合台間) 地下2層化で複雑線化を

十一月三十日、井口まみ市議は、「小田急線の地下2層化・複雑線化を求める会」の小田急本社交渉に出席し、小田急線の混雑緩和、踏み切りの安全対策などを求めました。

その内容を、十二月議会でもとりあげ、川崎市にも要望しました。

栗谷踏切の歩道は拡幅へ

以前から求めていた栗谷踏切内の歩道は、拡幅工事が始まり、来年2月末には完成することが明らかにになりました。

「開かずの踏切解消は地下化しかない」 小田急も認める

小田急線の遊園・新百合台間の複雑線化は、国の運輸政策審議会の答申で「二〇一五年までに着工すべき区間」となっています。小田急は「人口減少時代をむかえて、新たな設備投資は慎重に検討している」とこたえました。

井口市議は「川崎市の人口推計では、二〇年後まで人口は増え続け、減ると言っても四〇年後に今の人口に戻るだけ。

小田急線の必要性は変わらないうとして、設備投資をおこなう意義はあることを強調。小田急側も「開かずの踏切をなくすには、いまの地形や建築物を考えると地下化しかない」と認めました。

井口議員は、この答弁を川崎市に紹介し、「危険な踏切、開かずの踏切を解消するため川崎市は何をするべきか、検討してほしい」と要望しました。



十一月三〇日、小田急本社にて交渉をおこなう大村「会」代表(いちばん左)。左から3人が井口まみ市議。

を求めました。

多摩川音頭のルーツを探る

多摩市民館
2011.1.27(土) - 3.10(土)

花あふれる多摩区を

多摩市民館
2011.1.27(土) - 3.10(土)

誰もが毎日をおいしくシニアの食について考えよう!

多摩市民館
2011.1.27(土) - 3.10(土)

多摩市民館では多彩な主催講座や協働講座をおこなっているが、市民館のみのため、参加者は限られている。

多摩スポーツセンター
いよいよ3月26日
オープン!

障害者手帳提示で料金無料 高齢者割引も「検討する」

12月市議会で、井口市議質問

この20年を振り返れば 「これは市民が作った スポーツセンター」

井口市議は質問の中で、このスポーツセンター実現までの道のりを振り返り、次のように要望しました。

「多摩区にスポーツセンターを作ると最初に表明されたのが、一九九〇年でした。それから、なんと二〇年がたちました。

当初からプールをつけてほしいと求め続け、決まりかけた時に市長の行革でDランクにされてプールは白紙。それでも市民はあきらめずに請願を出し、プール付きのスポーツセンターを求め続けてきました。

国保の「無料プール券」の利用も検討

利用料金について、井口市議は「市内ではじめてのプール併設のスポーツセンターであり、これまで利用しなかつた高齢者や障がい者も気軽に利用できるよう、利用料金にも工夫をするべき」として、

- ・障がい者は障害者手帳を受付で提示すれば無料になるが、広報されていない。チラシやホームページに明示を。
- ・高齢者割引を行い、高齢者の利用促進策を。

と求めました。

門ノ沢多摩区長は「障がい者の利用料金などは周知に努める」と述べるとともに、「高齢者の優遇制度については、他施設や他都市の状況を参考に検討する」とこたえました。

また、井口市議は「川崎市国民健康保険の加入者（高校生以上七四才まで）は『温水プール無料利用券』で市内すべての温水プールが利用できる。これを多摩スポーツセンターにも適用すべき」と質問。

菊池健康福祉局長は「検討する」と前向きな答弁を行いました。



建設が決まってからも、建設委員会が丁寧に関われ、たくさんの人たちが意見を寄せてきました。

このスポーツセンターは名実ともに市民が作ったセンターだと思います。この経過はとても大切です。いよいよ運営が始まるわけですが、これからも、しっかりと市民の声を聞いて、市民とともに運営していただきたいと思えます。」



12月議会の一一般質問をおこなう井口まみ市議

二〇一〇年十二月議会での日本共産党の質問等は、別紙の「明るい川崎」でご報告しています。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

多摩スポーツセンターの送迎バス 南武線と小田急線の駅から2路線

区内の強い要望になっていたのが、交通アクセスです。市は「事業者が利用促進のための送迎バスを提案している」といっていましたが、検討状況を質問すると、多摩区長が、「新たな交通手段として、マイクロボスの運行計画をしており、JR南武線と小田急小田原線のそれぞれ1つの駅を経由する、2つのコース案で協議を進めている」と答弁しましたが、まだこの駅から、どこを経由して送迎するかは明らかにされませんでした。

井口市議は、「たくさんの方が利用したいと待っている。オープンしたらすぐ行かれるように、コースを急いで決定し、早く周知してほしい」と要望するとともに、「中野島は交通の便が悪いので、ぜひ中野島をコースに入れてほしい」と要望しました。

日本共産党 採択を求め、本会議で意見表明

「命の水を守るために、 生田浄水場の廃止の再検討を求める」請願

水道料金にも跳ね返る全市民的な問題

かつまた議員は討論の中で、市民の飲み水の六七%の水を五六kmも離れた小田原から水を運んでくることは、大規模災害時には無理であること、を明らかにするとともに、自治体が自己水源を廃止し、他の事業者の水に依存することは、料金の決定も独自におこなうことがむずかしくなり、市民全体に影響を及ぼすことを明らかにしました。



本会議場での、請願署名の採択の瞬間。日本共産党のみが賛成で起立。ほかの議員はすべて着席。

十二月十五日、川崎市議会本会議で、「命の水を守るために、生田浄水場の廃止の再検討を求める」請願の採択がありました。これは、十月二十七日の市議会環境委員会で審議を経て、最終的に本会議で賛否を決するものです。委員会では「不採択」という結論でしたが、再度本会議で採択します。

採択に先立ち、日本共産党のかつまたみつえ市議（麻生区）が「生田浄水場は廃止するべきでない」と代表討論を行い、採択に賛成することを表明しました。



賛成の代表討論をおこなう日本共産党のかつまたみつえ議員

神奈川県内広域水道企業団は、水需要を過大に見積もり、莫大な設備投資をしています。その借金がいま各自自治体に重くのしかかっているとともに、今後の維持、補修や施設の更新にさらに巨額の費用がかかることがすでに懸念されています。企業団の水に六七%も依存すると、その費用をそのまま料金に転嫁され、市民の負担になる懸念があります。そうした点から、企業団の経営改善を行い、市民負担に転嫁せずに経営を維持しながら、自己水源である多摩区の井戸水とその処理をおこなう生田浄水場は残すべきである、と強く主張しました。

民主、自民、公明、ネット、無所属議員が反対

採択では、日本共産党は全員が起立し賛成しましたが、ほかのすべての議員が反対したため、本会議でも「不採択」になりました。